

議 事 要 旨

会議名	第 30 回 町田市子ども読書活動推進計画推進会議		
日 時	2026 年 1 月 22 日 (木) 14:00~16:00	場 所	中央図書館 ホール
出席者	吉成委員 大石委員 輪田委員 兼子委員 中川委員 武藤委員 長尾委員 福田(比)委員 福田(有)委員 島崎児童青少年課長 田中子育て推進課長 伊藤教育総務課長 小松指導主事(指導課長代理) 中嶋図書館長 【事務局】本郷副館長 根岸担当課長 野口サービス係担当係長 小林主事 野木主任 廣瀬主事	欠席者	大山委員
項 目	議 事 内 容		
◎開会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠確認 ・ 資料確認 ・ 町田市子ども読書活動推進計画推進会議設置要領の改正について ・ 中嶋図書館長挨拶 <p>・ 本会議は、「第五次町田市子ども読書活動推進計画 2025 年度上半期の取組状況について」の報告及び情報交換を趣旨とする。</p>		
◎議題 1	<p>【第五次町田市子ども読書活動推進計画 2025 年度上半期の取組状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第五次町田市子ども読書活動推進計画の概要を説明 ・ 資料 2 を用いて、各取組担当課から、第五次町田市子ども読書活動推進計画 2025 年度上半期の取組状況の報告を行った。 <p>(事務局)</p> <p>各取組の自己評価の基準は、『A: 予定以上に取組めた、B: 予定通り に取組めた、C: 予定よりも取組めなかった』となっている。</p> <p>○「基本目標 I」についての報告 (児童青少年課)</p> <p>●1-3 学童保育クラブのおはなし会</p>		

中央学童保育クラブでは毎週土曜日に学童保育クラブ支援員がおはなし会を実施したほか、夏休み期間に地域のボランティア団体によるおはなし会を低学年対象・高学年対象の2回実施した。そのほか12の指定管理施設においても、地域のボランティアと連携し、月1回以上、おはなし会を実施した。

(子育て推進課)

●1-5「子育てひろば」のおはなし会

子育てひろばの中で、毎回年齢や季節に合わせた絵本を紹介したり、読み聞かせを行ったりしている。おはなし会を主とした子育てひろばを5地域で計137回開催した。また、町田地域子育て相談センターでは、館内の利用者向けに不定期で実施している「スポットタイム」にて、読み聞かせを13回開催した。

地域のボランティアに絵本の読み聞かせを行ってもらう機会を設けた。

(図書館)

●1-10 若者の参画イベント

上半期はイベントを2件実施した。

6月15日に「ありのままアニメ化漫画を5分で話すぜッ！！～アニメ化漫画推し語り会！～」を行った。

今回は、「アニメ化した、または、アニメ化予定」の漫画というしぼりをつけて、みんなで推しの漫画について、おすすめポイントなどを語り合った。

また、7月12日「おいでよ！クトゥルフの沼」と題して、机上で行う、TRPGというゲームの初心者講座を行った。ゲームへの参加者が4人、観戦者が5人。参加者は初対面同士だったが、熱心に話し合ったり、笑いの起きる場面もあつたりと、かなり盛り上がった。

そのほか、9月14日には、「夢をかたちに！学生企画づくりの一日体験」という講座にプランナーが参加し、企画作りのイロハを学んだ。

(事務局)

「基本目標I」の主な取り組みは、子ども向けおはなし会の実施や、子どもへの読書活動普及などになる。

各取り組み項目の自己評価としては、16項目すべてB評価だった。

上半期の取組状況としては、2024年度と同水準でおはなし会や講座などのイベントを実施することができた。

質疑応答

(福田(比)委員)

評価はB評価のみということだが、職員が頑張っているのだから、A評価

にはならないのだろうか。

(事務局)

数の指標がない中、例年通り行えているとして、B評価にしているところが多いのではないか。

○「基本目標Ⅱ」についての報告

(図書館)

●2-3 図書館

●2-12 「みんなが読める本」の周知活動

カウンターで読書相談を受けた際に、どのような質問を受けたか、どのような資料をご希望されたのか事例を記録している。記録した事例は、より適切に紹介できるような資料を購入する際の参考とする予定。また、下半期に児童の図書館見学等を受け入れる予定があったため、上半期には、見学の際に、児童のニーズを把握するためのヒアリングを子どもたちに行いたい旨を学校に伝えるなど、ニーズ把握のための準備を行った。

「みんなが読める本」の周知活動については、多様な子どもたちに対応できるような本の検討や、そのような本があることを知ってもらえるよう、イベントや展示により広報した。夏休みの期間に、中央図書館で、7月31日に「マルチメディアデイジー（絵本）上映会」、8月7日に「点字でなまえをうってみよう！」を行った。「マルチメディアデイジー（絵本）上映会」には、18人の方が参加し、イベント時に行ったリーディングトラッカー作りでは、子どもたちが熱心にリーディングトラッカーを作っていた。「点字でなまえをうってみよう！」には14人の方が参加した。参加者は、自分で打った点字を目の見えない当事者の方に読んでもらうが、点字を打った紙を渡す際に、相手の手の高さに合わせて渡す必要があるなど注意すべきことに気づいた様子うかがえた。

(教育総務課)

●2-7 学校図書館の蔵書整備

2025年度の各学校図書館の蔵書整備計画を確認した。

下半期には中間確認を実施し、蔵書購入及び廃棄が計画どおり推移しているか確認する予定。蔵書を古い本から新しい本に更新する比率が、全国平均7%となっているため、それを達成した学校数を目標としている。

(指導課)

●2-9 学校図書館の運営人材の確保

巡回型学校図書館指導員の運用開始に向け、準備を進めた。

(事務局)

「基本目標Ⅱ」の主な取り組みは、本と出会える環境づくりや、図書資料の整備、学校図書館の充実、保護者に向けた読書イベントの情報発信などになる。各取り組み項目の自己評価としては、14項目中、A評価が1つ、B評価が13だった。

上半期の取組状況としては、図書資料の充実に向けて、図書館や子どもセンター・学童クラブ等で本の新規購入や再利用本の活用をし、図書館の学校図書館支援貸出の制度を周知した。また、情報発信について、図書館ホームページの構成を閲覧者に分かりやすいように整えたり、子ども向けの情報がまとめて掲載されている、「子育てサイト」で情報発信を行ったりした。

玉川学園駅前連絡所児童図書室について、新規購入と寄贈で計67冊の図書を受け入れ、季節の飾りつけを行い飽きさせない工夫を行うことができたためA評価としている。

質疑応答

(質問：兼子委員)

図書館ホームページについて、予約するために検索をかけ、予約カゴにいれようとしたところ、ログイン画面が出た。ログインしようとしたところ、画面が真っ白になった。パソコンで入り直したところ、利用券の有効期限が切れていることがわかった。スマホの画面だと有効期限が切れているという表示が小さくて見づらいため、改善してほしい。

また、web ページでの利用券更新の操作説明がPDFで掲載されているが、スマホからだで見づらいため改善してほしい。

(回答：事務局)

当該事象についてシステム担当と確認する。また、スマホの画面でも各表示をより見やすくするよう検討する。

(質問：福田(比)委員)

2-9について、学校の専門司書が来るまでの間、図書の指導員が活動すると聴いて図書指導員になったが、学校の専門司書の話が無くなってしまい、巡回型指導員となっている。どうなっているのか。自ら読書をする子を育てるためには、図書指導員も頑張るが、学校内で発言力がある方の協力が必要。指導員が巡回して変わるのかが疑問。

(回答：指導課)

司書が常駐するのが一番だが、予算の関係上難しい。巡回型指導員制度を通して、学校の教師の意識を高め、連携していけるようにしていきたい。

◎情報交換	<p>○「基本目標Ⅲ」についての報告 (指導課)</p> <p>●3-1 学校図書館担当者研修</p> <p>・5月と9月に開催した学校図書館担当者研修会において、学校図書館担当教員と図書指導員の連携についてテーマとして取り上げ、情報交換を行った。また、図書指導員同士の意見交換の場を設け、各校の取組状況を共有する場も設定をした。</p> <p>(図書館)</p> <p>●3-3 市民向け絵本の読み聞かせ講座</p> <p>上半期は6月に中央図書館で「絵本の読み聞かせ講座基礎編」を実施した。講座内容の「主に低学年を対象にした本の選び方」や、「読み聞かせ方について」などを図書館職員が講師として行うものとなっている。アンケートの受講理由を見ると本選びに困っている、読み聞かせの基本的なことを知りたいという内容が多くあり、受講者のニーズと合致した内容を提供することができたと思っている。受講者の感想として「絵本の持ち方の実習があり、とても参考になった。」「多くの種類の本の内容を詳しく紹介してもらえて選び方の参考になった。」という声があり多くの好評をいただいた。</p> <p>(事務局)</p> <p>「基本目標Ⅲ」の主な取り組みは、学校図書に関わる人への研修や保護者等向けの講座、読み聞かせボランティアの育成である。</p> <p>各取り組み項目の自己評価としては、5項目すべてB評価だった。</p> <p>取組状況として、概ね2024年度と同水準での学校関係者への研修や保護者等への講座の実施、下半期の準備をすることができた。</p> <p>・報告書(案)を承認し、内容を確定した。</p>
	<p>(中嶋委員長)</p> <p>皆様が行っている子どもの読書活動推進のために行っている工夫や、子どもたちがどのようなものに興味があるのか、ご意見等をおうかがいしたい。</p> <p>(図書館)</p> <p>読書活動の新しい取り組みということで中央図書館では11月に「紙芝居講座」を童心社から講師を招いて実施した。これは基本目標3-3にある市民向け読み聞かせ講座では初の取り組みだった。紙芝居の演じ方や選び方、紙芝居の作成過程など普段では聞けないような内容で、参加者からもアンケートで「紙芝居の舞台の使い方が分かった」「出版社の貴重な</p>

お話が聞けて良かった」「これからも行ってほしい、また参加したい」というありがたい声をいただいた。

次に、子どもたちの興味ということについては図書館見学で、生徒にインタビューを行った。「今どういう本があれば図書館に行きたいと思えますか？」という質問をし、ワンピース・ドラゴンボール・ポケットモンスター・星のカービィ・名探偵コナンなどのマンガが欲しいという声が多く、ほかにはヨシタケシンスケさんの本やミッケ！・スイミー・怖いお話・マンガの描き方の本が欲しいという声があった。

本以外についてもインタビューし、「無料で遊べるゲームコーナーがある」「ガチャガチャがある」という大変ユニークな意見もあれば、「人形劇が観たい」「人気のシリーズが書架に揃っている」「外での読み聞かせ」というような声があった。これらの子どもの意見を参考に「図書館を訪れるきっかけ作り」ということで、今やれることとして中央図書館児童フロアではマンガの拡充を進めている。

10月2日から12月25日まで、「子どもたちの読活(よみかつ)を応援！電子書籍でスキマ読書！」と題して、電子書籍クラウドファンディングを行った。子どもたちがもっと気軽に読書に親しめる環境を整えたいという思いから、このクラウドファンディングを実施した。このプロジェクトの目的は、寄付を募り、子どもたちに人気の電子書籍コンテンツを充実させることである。市立小学校・中学校の全児童・生徒には、すでに電子書籍サービスのIDを付与しているため、寄付によって増やした電子書籍を、一人ひとりが自分のタブレットやスマートフォンから利用でき、子どもたちは学校の「朝の読書時間(朝読)」など、ちょっとした「スキマ時間」を有効活用して、いつでもどこでも読書を楽しめるようになる。期間中に9人の方から、総額42万8千円の寄付があった。今後、ご寄付を利用して購入する電子書籍を検討していく。

また、「押し本を伝えよう！ひとことPOPコンテスト2025」について、学校にも協力していただき、370作品の応募があった。第一次審査を通過した10作品について、2月6日から第二次審査のシール投票を、各図書館や協力書店で行う。図書館や書店に寄った際には、シール投票に参加をお願いしたい。

次に、「図書館プランナー」について紹介する。図書館プランナーは、「自由な発想で、図書館でやってみたいことの企画・運営などを行う、中学生を除く15歳から25歳までのボランティア」である。2024年度から活動を開始しており、今年度の上半期には、先にも報告したとおり2件のイベントの企画・運営を行った。また、12月には、「わたしの一冊」～読書の輪を広げるビブリオバトル～」と題して、中高生バトラーを対象としたビブリオバトルイベントを実施した。残念ながら、バトラーの申込はなかったため、プランナーがバトラーを務めたが、観戦者は年齢を制限しなかったこともあり、6人程度いた。また、イベント終了後にも「何

をやっていたの?」、**「もう終わっちゃった?」**と覗いてくれるお客さんがいた。12月21日には、「文庫本のカバーでオリジナルのノートをつくらう!」と題して、図書館の本の見た目のようで、実は中身がノートになっているというものを作るイベントを行い、2人の参加者がいた。ほかにも、図書館が実施するイベントのお手伝いを行ったり、プレイベントと称して、お客さん向けに企画する前にみんなで練習したりした。先の予定になるが、2月は集英社漫画の推し語り会、3月はTRPGイベントと子ども向けのゆび編みたわし作りのイベントを行う。また、「まちだ若者大大大作戦」のイベントにも参加する。3月15日に第2部が町田ターミナルプラザで、3月29日に第3部が町田薬師池公園四季彩の杜西園(ウェルカムゲート)で行われるため、図書館プランナーもブースを出す予定。

図書館としては、若者の活動が継続して行えるような環境作りと、今活動しているメンバーの進級・就職があるため、通年で募集はしているが、新しいメンバーの募集を新年度に向けて行っていければと考えている。

(児童青少年課)

町田市は、子どもの参画に力を入れている。町田市は、「若者の意見を聞く」という取り組みから一歩踏み込み、若者が主体的に取り組み、「やりたいことを形にする」ことができるように取り組んでいる。「まちだ若者大大大作戦」の3年間の総括するイベントを、若者自身が企画し、「まちだ若者大大大作戦」を行う。図書館プランナーの話にもあったが、若者はすぐに大人になるので、次の世代の若者たちに、「私もやってみたい」と思われるような企画をしたいと、若者たちが今、頑張っていて、企画を進めている。

(指導課)

図書指導員の現状の確認を行っている。それにあたり、小学生・中学生の平均貸出冊数を調べてみると、中学生から忙しくなることもあり、中学生の方が減っている。貸出冊数と学校の先生と図書指導員の連携を、連携指数として学校の現状把握に使用している。学校の先生と図書指導員が連携できているところだと、平均が大きく上がっているため、指導課として、どのような取組であれば、学校が取り組みやすいかを考えながら、検討していく。

(中川委員)

私のいる幼稚園は、認定保育園でもある。最近は特に、幼稚園に任されることが多くなってきている。そのため、家での体験を幼稚園で、ということ意識し、日頃の活動を行っている。

毎年節分を行っているが、今回は趣向を凝らして、「桃太郎」の物語を取

り入れて行ってみる。

子どもたちは物語が大好きなため、図書館で家族と本を読んだという経験が大事。さるびあ図書館のそよかぜ号が幼稚園に来てくれており、大好きな本が来るということで子どもたちは楽しみにしている。さるびあ図書館の職員が、「こんなこともできますよ」と親切に対応してくれている。家でできない体験を幼稚園で提供していくためにも、今後ともよろしくをお願いします。

(武藤委員)

「絵本のへや」というものがあり、職員の絵本係によって絵本を飾っている。また、その場所は読み聞かせの場でもあり、保護者の読み聞かせの場でもある。マイ保育園として登録している保護者もよることができ、喜んでいる。

最近は、「ミッケ」が人気で、修繕しながら使っている。

(吉成委員)

小さいころから物語に親しむことが大事。小学六年生でも読み聞かせが好きな子はいる。ただ、いざ本を自分で持って読書をするとなると、ハードルが高いようだ。読書に没頭する子もいる中で、なかなか読まない子もいる。様々な理由で、本が読みづらい子もいるため、今後も支援していく。

また、朝読の時間を設けている。読書をするにはゆとりがないといけないため、ゆとりのある時間を作っている。

季節に合わせて並べられた本を子どもたちはよく見ている。こういった地道なことを取り組むことが大事。

(大石委員)

現在の学校は、改修工事の影響で、図書室も別室で行っているような状態であるため、前の学校の話をする。

前の学校は、試験期間でも朝読を行っていて、ビブリオバトルや図書フェスタも行っている。また、保護者が選書を行って中古図書販売店から購入した本を、朝読用に年間20～30冊ほど、学級図書としてクラスごとに提供してもらっている。本を選ぶことが楽しいと保護者が言っていた。たくさん本を借りる子とほとんど借りない子の二極化している印象。

(輪田委員)

ボランティアは、多い時には各クラスから5～6名程度の参加があったが、コロナ以降数が減少し、各クラスから1名以下の参加となっている。昔は、ペープサート等も行っていた。

今年度からは、PTAと連携することとなり、PTAのホームページに読み聞

かせページを新設したり、PTA からのお知らせが LINE にて送られる際にも、その LINE からすぐに読み聞かせページにアクセスできるようにしたりしている。

また、PTA 主催で9月に学校探検を行った。探検のミッションをストーリー仕立てで説明したところ、関心を持って聞いてくれた。怖いおはなし会を体育館で行った際は、スクリーンに投影しながら行った。

子どもたち向け以外のことでは、大人だけで絵本を読み合う会を実施した。どのように読めばよいか分からない人もいたため、自分が図書館の講座で教わったやり方を共有しながら、会を進めた。

図書室において、教科書に載っている絵本を集めての展示等も行っている。

(兼子委員)

子どもたちから聞いた話によると、通っている小学校では、全学年のおススメ本が図書室前に貼り出されているとのことだった。

自分が関わっている中学校では、新入生保護者説明会の時、「子どもに本を読ませてください。」という話があった。

私が参加しているボランティアは、本来子どもの卒業と共にボランティアとしても卒業することとなっているが、OGとして現在も参加している。ボランティアでは、1学期に1度読み聞かせをしているが、今年度は英語が得意な人がいるため、バイリンガル絵本も活用している。これからもボランティア活動を続けていきたいところだが、来年度は人数の関係で厳しいかもしれない。

(長尾委員)

乳幼児向け、小さい子向け、大きい子向けを合わせて、年間15～18回ほどおはなし会を行っている。南町田だと乳幼児が多いが、木曾だと少ない等場所ごとの特色がある。

絵本は子どもたちみんな好きだが、語りとなると最近の子は集中が続かない子もいる。そのため、今までは語りの時間を2回とっていたが、1回になったりしている。人の話を聴くのはコミュニケーションの基本。こうなっているのは悲しい。

おはなし会は、大型絵本や童歌を交えながら、工夫して行っている。おはなし会后、おはなし会に関する本を置くことにしているので、興味を持って借りていってくれる。

(福田(比)委員)

来年度、鶴川第四小学校と鶴川第三小学校が統合し鶴川中央小学校になるため、一般教室に改装される絵本室の絵本を図書室に移動し、日常の図書の授業での活動以外に、図書の片づけおよび鶴四小の図書の受け入

<p>その他</p>	<p>れ準備を行っている。大変な作業が続いているが、子どもたちが楽しく読書ができる環境を作るためと思い頑張っている。</p> <p>(福田 (有) 委員)</p> <p>週1回、水曜日の夜に無料塾を行っている。勉強のための場ではあるが、本を手にとれるような環境にしている。</p> <p>また、朝10時から放課後デイサービスを行っていて、月1回鶴川駅前図書館に本を借りに行き、月2回は読み聞かせをしている。</p> <p>最近では、クロスワードパズルを作るワークショップを行った。辞書を使って行うものだが、中高生の中には辞書を使ったことが無い子もいた。不登校であるため、仕方のない部分ではあると思うが、学校で触れることが大切。本としては、ホラー・料理・マンガを好んで読んでいる。</p> <p>鶴川駅前図書館にて、福袋イベントが行われており、読んだことのない本に出会うことができ、大変良かった。</p> <p>事務局から次期の任期および次回会議開催予定の連絡を行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------------	---